



東灘消防団
御影東分団

小林 元彦 さん

地域に頼られる消防団員

執筆者 御影東分団分団長 鈴木 宏文
神戸市の東の端、東灘区。その中の御影を活動範囲とする御影東分団で、一際目立つ団員がいます。それが、小林元彦さん（60歳）です。彼の一年の始まりはスキー。毎年12月31日の年末特別警戒を終えると、息子さんと2人で山へ出かけ、すがすがしい気持ちで元旦の初滑りを楽しめます。もちろん腕前は、「自称ブ口級」。そんな小林さんの人柄と消防団活動を紹介させていただきます。昨年9月に開催された神戸市小型動力ポンプ操法大会では、猛暑の中、署員の指導や署長・団長をはじめ、多くの方々の叱咤激励を受けながら、

長期間にわたって練習に励みました。その中で悪戦苦闘していたら番員が、中堅団員の小林さんでした。チーム内の最年長でしたが、猛暑をものともせず、ベテランの味を存分に発揮し、苦戦している若い団員を優しくかばいながら、リーダーとしてグイグイ引って張って頑張り通し、大会当日の結果は、31チーム中第7位という好成績を収めることができました。また東灘区では、市立中学校の2年生を対象とする市民救命士講習会のすべてを、消防団員が指導して行っていますが、これら活動はすべて平日に行っています。土・日曜日以外に生徒数に応じた指導員を確保するのはなかなか難しいのですが、小林さんはサラリーマンでありながら、ほとんどの講習会に積極的に参加してくれます。そして、地域で実施される防災訓練の指導や各種の講習会な

ども、率先して参加してくれます。小林さんによると、「私は地域の方々の役に立つために消防団に入ったのですから、皆さんに喜んでもらえるのであれば、何事も積極的に参加させていただきます」とのことです。こんな小林さんですから、地域の方々の信頼も厚いものがあります。これからも、わが御影東分団は小林さんを手本に、全員が地域に頼られる消防団員として、「地域の安全・安心」のために、誇りを持って活動できる分団でありたいと思えます。そして、「御影東分団ここにあり」と言われるように、頑張っていきたいと思っています。

